7 東日本から 感動をあなたに ―東北の実践をご紹介します―

品川のユニセフハウスでは、今年度に入って、東北地方から、多くの修学旅行の生徒さんをお迎えししています。その中のいくつかの学校から、震災後の支援に対して、温かいお礼のメッセージや歌声をいただきました。心から感謝申し上げつつ、ご紹介をさせていただきたいと思います。

岩手県大船渡市立赤崎中学校

2013年４月11日木曜日。三年生の皆さん20名が、おいでになりました。合唱とメッセージをいただきましたが、特に、代表の金野光紗さんのメッセージは圧巻でした。ご紹介させていただきます。

メッセージを読み上げる金野さんと赤崎中学校のみなさん

リハーサル風景　指揮者は、清水紀希さん

おはようございます。岩手県大船渡市立赤崎中学校の３年生です。今日は支援してくださったユニセフの活動やいろいろなことを教えていただけると聞き、楽しみにしています。私たちを支援してくださったユニセフの活動を知り、自分たちにできることを考えるためにいろいろ学んで帰りたいと思います。

さて、二年前、私たちが中学校に入学するときに、赤崎中学校の校舎が東日本大震災でなくなりました。中学校に入学できるかも分からず、心配や不安な気持ちで毎日を過ごしていました。同じ市内にある大船渡中学校の三階を間借りして、入学式ができると決まった時はとてもうれしい気持ちでいっぱいでした。反面、スクールバックや制服、文房具もなくなって、残念な気持ちも、正直ありました。入学式の日、小学校の頃からの友だちと、他の小学校から来た友達が学校に集まりました。そ

して、もう一ついっぱいだったものがありました。それは、ユニセフから支援された、文房具です。一人一人の机の上にいっぱいありました。その時、心配だった気持ちがいっきになくなり、これから一生懸命がんばろうと思いました。ユニセフからは、一回だけでなく何回も支援をいただき、今わたしたちは学校生活を楽しく送ることができています。

わたしたちは今、去年の七月に完成した仮設校舎に通っています。仮設校舎に来て、私たちは、赤中の新しい伝統を作ろうと頑張っています。その一つとして、合唱に力を入れています。合唱を通して、地域の方々を元気づけよう、私たちが頑張る姿を届けることで、地域も元気になってもらおうと考えたからです。文化祭などで、地域のみなさんや保護者のみなさんに披露してきました。

昨年から、私たちは赤中の校歌を四部合唱にして歌ってきました。この校歌もフェリス女学院のみなさんのおかげで、合唱にしていただいたもので、素晴らしい校歌です。最初は音程がズレたりして、練習がとても大変でした。でも毎日みんなでパート練習や工夫して練習していくたびにきれいな合唱に近づいています。合唱だけでなく新しい伝統をつくろうと、これからも頑張って行きます。

今日はその四部合唱を感謝の気持ちを込めて、一生懸命に歌いたいと思います。

聞いてください。

岩手県宮古市立河南中学校

４月15日。河南中学校のみなさんのプレゼンテーションは、他校との交流の足跡でした。送られたひまわりの種を大切に育て、大輪の花を咲かせた河南中学校の取り組みの素晴らしさ。両校の交流が深まるにつれ、ひまわりの大輪の花は、河南中学校のみなさんの心のエネルギーとなっていきました。支え励ましてくれる仲間の存在は、大切です。

当日の展示室案内を担当したガイドさんたちにとっても、友情の尊さが胸に染み入るひとときとなりました。

発表する代表生徒

花開いた友情のひまわり

ガイドさんとの交流

宮城県石巻市立蛇田中学校

蛇田中学校からも、感謝の気持ちをいただきました。

合唱する蛇田中学校のみなさん

蛇田中学校の体育館には、震災後、たくさんの方が避難していました。そんな中で、避難所の方々の不安な気持ちをやわらげようと始められた合唱。その合唱が、お礼の言葉とともにユニセフハウスに届きました。

「大震災の後、無事だった私たちも大きな余震におびえ、電気も水道もない中、不安で眠れない夜を過ごしていました。そのような状況の中のユニセフの支援には、感謝してもしきれません。

中でも、一番感謝しているのは給食です。震災後、初めて出た給食は、パン１個と野菜ジュース１本でした。そこから、ユニセフ協会による給食食器支援があり、生徒全員が食器や箸を受け取ることができました。

支援によって、安心して部活動や勉強に取り組むことができた子どもたちと学校があります。本当にありがとうございました。」

歌ってくださったのは、「花は咲く」「虹を架けよう」「ふるさと」の三曲です。観客席からも手拍子が響き、会場は、温かい和やかな雰囲気に包まれていました。

宮城県女川町立女川中学校

女川中学校からは、大震災を教訓として「千年後のいのちを守るために」と題された三つの提案をいただきました。前向きな取り組みが力強く胸を打ちました。ご紹介させていただきます。

三つの提案

①女川町の絆を深める

人と人とが深い絆でつながっていれば、皆が避難の呼びかけに耳を傾け、声をかけあって行動することができる。

②高台の町、避難できる町

学校や病院などの施設は高台につくる。町には誘導灯や避難路を整備して、海辺で働いている人も観光客もすぐ避難できる町にする。

③記録を残す

この記録を残さなければ、将来また同じような大惨事が起きるかもしれない。ずっと残る記録として、町内の各浜に石碑を建てる。

プレゼンテーションのスライド

「夢だけは壊せなかった大震災」のメッセージが力強いスライド